

井戸の重要性の見直しを

一般社団法人 全国さく井協会 第 50 回定時社員総会開く

(一社)全国さく井協会は 6 月 21 日、東京都中央区の鉄鋼会館で第 50 回定時社員総会を開催し、令和 5 年度事業報告、決算を承認し、令和 6 年度事業計画及び予算の報告を了承した。

総会の冒頭、足立敏之会長から挨拶があり「国会期間中は色々なことがあり、ご心配をおかけしたが、本日の本会議で閉会となった。“骨太の方針”における防災、減災、国土強靱化対策の位置づけについても、実施中期計画に取りまとめることで大体収まりがついた。内閣府では能登半島地震の反省事項として防災井戸の見直しという動きが出てきている。これからも皆様のご期待に応えられるよう頑張っていく」と強い意気込みを述べた。



開会にあたり挨拶する足立敏之会長

続いて来賓の森本輝国土交通省河川計画課長も「能登半島地震で威力を發揮したのが防災井戸。協会の皆様には調査にご協力していただき、地域の持つ資源の有効性を改めて認識したところです。皆様の協力なしではこれから来るであろう大災害や南海トラフ地震に立ち向かうことはできない。地域を支えている皆様としっかり連携し対策を強化していきたい」と挨拶した。



総会会場

令和 6 年度の重要事業としては、次の 4 つを挙げた。(1)資格業務の推進 ①地下水利用設計管理技術者 ②登録さく井基幹技能者 ③建設キャリアアップシステム(CCUS)の能力評価 (2)さく井協会創立 50 周年記念といい井戸の日 11 月 7 日に記念式典は新宿のホテル ハイアットリージェンシー東京、いい井戸のは新宿駅西口イベントコーナーで開催 (3)他団体との協調協力し日常活動強化 (4)事務所の移転 中央区八丁堀から港区新橋へ

最後に議長を務めた若林直樹副会長が「コロナも落ち着き平常が戻ってきた。事務所移転のもと、新しいさく井協会をスタートさせよう」と挨拶し、総会を終了した。

懇親会は 77 名の参加で行い、東北支部 坂本興平支部長の乾杯発声で歓談に入った。予定の時間は瞬く間に過ぎ、最後に中央支部 森川俊英副支部長が「秋も東京でお待ちしております」と述べ、1 本締めでお開きとなった。

総会、懇親会に参加いただいた皆様、大変お疲れさまでした。



懇親会スタート